

# 頌栄、東京女学館、広尾、広尾小石川、 三田国際、山脇、東京女学館合格

## ・中学受験を決めたきっかけ

英語圏現地校で5年程過ごし、小3時に日本の公立校に転入しました。明るく前向きな性格の子ですが、日本の学校の同調圧力や英語の授業にストレスを感じている中、参加した広尾学園の体験授業が非常に楽しかったようで、受験を決めました。

## ・現地での学習で苦労したこと、うまくいったこと

特筆すべきことはなく、現地校+補習校に元気に楽しく通っておりました。

## ・帰国後の学習で苦労したこと、うまくいったこと

英語について：

帰国時期が小3と早かった為、英語力保持のため、帰国直後から週1回英語塾に通いました。帰国時点で英検2級、5年で準1級、6年でTOEFL100を取りました。

算数・国語について：

新小4から近所の大手受験塾に入れましたが、帰国生には不必要な内容が多いと感じ1か月で退塾、enaの校舎も遠かった為、通信講座を受講することにしました。

新小4から小6夏期までのインプットが終了したところで、ena東京校の志望校対策講座で受験終了まで徹底的にアウトプットをしました。オンラインにも関わらず非常に丁寧にみて頂けて、本人のモチベーションも上がり、親へのフォローまでして下さって、大変有難かったです。上のきょうだいも含めいろいろな塾に通いましたが、こんなに親身かつ的確な対応をして頂いたのは初めてで、親子共々本当に支えて頂きました。

## ・学校選びのポイント

6年夏までに受験可能性のある全校に親子で足を運び、本人が決めました。特に広尾学園の体験授業、三田国際の学園祭は魅力的だったようで、「この学校に入りたい！」とモチベーション向上につながりました。

受験形式選び（同じ学校でも英語1科目で受けるか3科目で受けるか等）は、enaの個人面談で、ボーダーラインと本人の成績を照らしながら沢山のアドバイスを頂いて決めました。6校受験し全勝できたのは、100%この永田先生の面談のお陰です。

## ・これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス

早期帰国生あるあるだと思うのですが、いかに周囲が〇ピックスや〇〇アカに通っていても、保護者会のたびにその話題で持ち切りであろうとも、決して流されず、ena国際部のような帰国生入試を熟知されている塾にお任せすることです。一般塾に入るとどうしても競争に巻き込まれ、英語に充てる時間がそがれてしまい、本末転倒になります。

また、帰国生入試は学校によって出題傾向が大きく異なるため、早めに受験校を決め、志望校対策講座でアウトプットを十二分にすることが、合格への最短距離だと思います。

- 志望校合格の瞬間のお気持ち

本人がガッツポーズをして飛び跳ねて喜んでいる姿と、パソコンの合格画面を見ながら、親はもうただただ全てのことに感謝・・・という、これまでの人生いち悟りを開いたような心境になりました。

受験勉強を始めてすぐの漢字テストで「映える」を「ばえる」、「貨物室」を「かもししつ」と書いた娘のつたない字がふっと頭をよぎり、あの状態からよくここまで来たものだと思いつつ、目頭が熱くなりました。

帰国生入試に挑まれる皆様のご健闘を心よりお祈り致します。

# かえつ有明合格

## • 中学受験を決めたきっかけ

元々中学受験はしないつもりで、5年生の2学期からカナダへ1年間親子留学しました。

娘はミックスなので、日本とカナダ両方の小学校に通わせてあげたい、英語の上達は勿論、祖父母との生活、カナダの教育、文化を肌で感じさせてあげたいという願いが元々あり、1年間限定でカナダに参りました。

帰国する3ヶ月前に、現地（海外）の学校へ1年間通っていれば帰国生枠で受験できる中学校もある、かえつ有明という学校はいい学校みたいだよ！という情報を友人から聞き、そこからオンラインで帰国生を受け入れている学校について調べ始めました。

帰国生が多く、自由な校風なかえつ有明は娘に合っているのではないかと、英語を普段から使える環境になるべく居させてあげたい、と思ったのが受験を決めたきっかけです。

## • 現地での学習で苦労したこと、うまくいったこと

受験を決め、とりあえず受験対策をしなくてはと思いオンラインのマンツーマンで受講を始めましたが（当時は未だenaを存じ上げず）情報量が少なく、相談もあまりできなかったのが苦労しました。

上手く行ったことは、カナダでの暮らしは友達との会話一つとっても娘の英語の上達に繋がっていたので、現地の生活を満喫し、それが学びとなっていたことはとても良かったです。

## • 帰国後の学習で苦労したこと、うまくいったこと

enaにお世話になってからは「かえつ有明に合格する為には何をすれば良いか」アドバイスを頂いたり、先生方を信頼し「言われた事は全てやる！」と決めて学習に臨めたのはとても良かったです。

帰国してから、かえつ受験前に英検2級、受験後に準1級を合格できたことも、受験を通して付けた英語力のお陰なので良かったと思います。

受験前に英検2級に合格できたことは、入試に臨むにあたって自信になったと思います。

## • 学校選びのポイント

帰国生が1/4在籍しているとのこと

実際に学校見学へ行った時に、娘が「ここに絶対行く！」と、とても気に入っていたこと

かえつ有明の先生方の親身になって応援してくださる姿勢

自宅から近い、自転車通学も可

この4点が決め手でした。

- 志望校合格の瞬間のお気持ち

合格発表は試験翌日の午前 10 時だったのですが、娘と一緒に見たいと思い、小学校から帰宅するのを待っておりました。待っている間はドキドキして食べ物も喉を通らず、色々考えてしまい生きた心地がしませんでした。

合否発表サイトでは娘が最後のクリックをしたのですが、「合格」の文字を見た途端、二人で抱き合って喜びました。娘は涙を流して喜んでいました。

歓喜の瞬間、あんなに嬉しかったのは久しぶりではないでしょうか。

本当に嬉しかったです！

娘以上に嬉しかったかも（笑）

一緒に頑張った分、喜びも2倍、感動させてもらいました。

受験をしなかったら味わえなかった感動、大変だった分、報われた瞬間でした。

- これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス

我が家は受験勉強を始めて5ヶ月ちょっと、enaに通い始めて3ヶ月ちょっとの短期決戦ではあったものの、短期間の中でも娘の気持ちにアップダウンがあり、モチベーションを維持させるのが大変でした。

入試日までのカウントダウンカレンダーを見える所に置いて、毎朝ポジティブな言葉と共にリマインドしたりしました。（かえつに入ったら～が待ってるね！次の文化祭は〇〇ちゃんも企画できるね、何したい？など）

勉強ばかりでは煮詰まってしまうと思い、麻でしめ縄を作るイベントに参加したり（願いを込めて編み込むと願いが叶うとのこと）、紙に受験に合格したていで、絵や文章を書くなど、息抜きに楽しめることも一緒に取り組みました。

「行きたい！」という気持ちを応援し、維持できるようサポートすることが大事だったと思います。

私と娘も受験を通して相当ぶつかりましたが、受験は必ず終わります。受験の全てが終わった時を想像して、親も子も、悔いの残らぬ様、頑張ってください！

# 頌栄、白百合、広尾合格

## ・中学受験を決めたきっかけ

娘が年中の時から海外で暮らしていて、日本で学校生活を送ることになった場合、選択肢の多い中学入学時がいいのではないかと考え、受験することにしました。その後、小6秋に帰国となったので、準備しておいて良かったです。

## ・現地での学習で苦労したこと、うまくいったこと

住んでいた場所柄、補習校以外には通信教育かオンライン授業の選択肢しかありませんでした。コロナ禍に始めた通信教育は、受験コースに変えてから自力で解けないばかりになって全く進まず。かと言って、親が教えられる内容ではなかったため、ena NYの春期講習(オンライン)に参加させたところ、画面の向こうの仲間に刺激を受けて、少しやる気に。でも、当時はまだ習い事が優先だったので、受講は持ち越し。その後、5月末からの夏期講習を週替わりで2ヶ月間校舎を複数掛け持ちして、追いつく努力をしました。特に算数は、自分が遅れていることに気づいてから、当事者意識が生まれました。現地にいる間は、毎日のようにあった質問時間を最大限活用し、日本の校舎に移ってからも毎週参加して、わからない問題をなくす努力を続けた結果、算数への苦手意識はほぼなくなったようでした。

## ・帰国後の学習で苦労したこと、うまくいったこと

本帰国してから、毎週の漢字テストで点が取れず、漢字練習ばかりしてましたが、すぐに結果は出ず。入試の頃になってようやく頭に入ってきたようです。また、志望校を決めてからは、受験校の対策講座もオンラインで受講。数ヶ月ぶりの英語の授業を楽しみに受けてました。

## ・学校選びのポイント

日本の学校に馴染めるか不安だったので、自宅から通える範囲で帰国生を多く受け入れていて英語の取り出し授業のあるところを探して、オンライン説明会を聞いて絞り込み、候補の学校を全て訪問して、本人に決めてもらいました。

## ・これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス

オンライン授業は、親もかなりの時間を費やしますが、娘が何を学んでいて、きちんと理解しているかを把握できたので、対策を立て易かったような気がします。また、秋の学校説明会、模試、願書申し込みの期間は、スケジュール管理が追加されて、忙しいです。あとは、面接で事前準備しづらい質問をしてくる学校もあるので、対策をお忘れなく。

## ・志望校合格の瞬間のお気持ち

最初に受けた学校が不合格。本人は、不安な気持ちを抱えたまま入試を受けていたので、合格した時はホッとしました。

# 渋谷幕張、広尾、広尾小石川合格

## ・中学受験を決めたきっかけ

3年前に上の子で中学受験を経験して、「中学受験するなら早く始めた方が良い」と痛感したので、受験するかしないかは決定していませんでしたが、新小4の授業が始まる頃に ena の海外校に入塾させました。それからずっと駐在は続いていたのですが、一度抜けて海外へ出て戻って来られる学校を選べば、入学後も再度父親の駐在先について行くことも出来る、ということで受験を決めました。

## ・現地での学習で苦労したこと、うまくいったこと

苦労したことは、中学受験をする友達が周りに全くいなかったことで、最後まで走り切れるか心配だったことです。ena が無い国に引っ越してからは東京校の授業をオンライン受講していましたが、学校が終わって急いで帰って来てすぐオンラインに入る、という生活で、それでも時差の関係で遅刻してしまう授業があり、気持ち的にも体力的にもキツかったと思います。そのため、現地に通っている学校が夏休みに入るとすぐに一時帰国し、日本滞在中の授業/模試はできる限り対面で参加させました。対面授業ではみんながすぐに受け入れてくれて仲良くなれ、同じように受験する子達と一緒に勉強できる環境が嬉しかったようです。現地に戻ってからは、次の帰国でみんなに会える日を楽しみにオンラインで頑張りました。今でも「毎日行った夏期講習、楽しかった！」と言っています。

## ・学校選びのポイント

海外駐在が続いていたので、一度抜けても戻ることができる学校を選びました。それ以外では、本人が希望する、共学校、日本語でも英語でもディスカッションができるようなお友達がいる学校、英語に関してはアメリカ現地校やインターのような授業をしてくれる学校、海外の大学を志望するようになってからもチャレンジできる学校、を選びました。

## ・これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス

我が家は3年前に中学/高校受験を経験済みで、秋に「もう受からない、、、」と思っていた子が合格、90%の合格判定だった子が不合格となった経験があります。今回も進学する学校の志望校判定はどの模試でも20%~30%で、努力圏から抜け出たことはありませんでした。それでも諦めずに続けたのは、永田先生が「最後の帰国生模試が終わってから入試本番までの数ヶ月も成績は伸びる」とおっしゃっていたからです。

受験のプロである ena の先生方のアドバイスを聞いて、我が子のことを熟知している親が子どもに伴走して受験を乗り切るのが一番だと思います。講演会、保護者会、面談等でできれば受験学年前から参加した方が良いと思います。また、私は毎日のように更新して下さっている東京校のブログを読んでいました。校舎での様子が書いてあったり、受験に臨む姿勢や親の心構えが書いてあったりで、遠く離れた海外にいても近くでアドバイスを頂けているようでした。

- 志望校合格の瞬間のお気持ち

12月までで合格を頂いていた学校があったのですが、1月の努力圏判定しか出ていなかった2校もチャレンジしました。不合格の時に「あの時ああしていれば、、、。」と後悔がないようにやり切ろう。やり切ってダメなら清々しい気持ちで受験を終えることができるから、と声をかけ続け、本人もやり切ったと思います。結果は1校合格、1校不合格でしたが、どちらも「よく頑張った！」と声をかけたと思います。

# 大妻、白百合合格

- 中学受験を決めたきっかけ

3学年上の長女が（前回の海外滞在後）ena 東京校にお世話になり帰国子女受験で進学していることから、次女本人・保護者共に当然中学受験をと考えました。

一般受験を念頭に3年生2月から大手塾に通い始め勉強を始めたところ、4年生5月に同年夏から私（母）が海外転勤の内示。次女は同行を希望し帯同（注：進学直後だった中一長女は父親と共に東京に残ることとした。）。これに伴い、入試は帰国子女試験で受けることを前提に、日本の塾は4年7月で退塾。

- 現地での学習で苦労したこと、うまくいったこと

小4 9月～小6 3月まで現地滞在。受験勉強は以下で進めました。

4年生9月～1月：インター校に慣れることを第一に、受験勉強（塾）はなし。英語環境に慣れることができず、通学を嫌がりつつもなんとか頑張っていた時期。

4年生2月～受験直前まで：当地には受験対策をしている塾が設置されていないため、複数の塾のオンライン説明会に参加した結果、最も受講の都合が合ったena iBTで受験勉強を再開。塾5年生は国語、算数をiBTで受講、英語の受講は夏期講習のみ。塾6年生は国語、算数をiBT、英語は東京校の「特訓英語」にオンライン参加。夏は毎年帰国し、東京校の夏期講習に対面参加。6年生12月も受験+冬期講習で帰国。

国語と算数は比較的順調に進みました。英語が6年生開始時の課題。「特訓英語」でいただいた文法課題を何度も解き直す、模試を何度も解き直す（三科目とも）、最後2ヶ月は英語エッセイと英語面接対策に、現地にて個人的なツテをたどり個別指導をお願いしました。またiBT校の先生も日本語の模擬面接をしてくださいました。受験直前には、英語も志望校に対応できるレベルになったと思います。

なお、iBTは全員オンラインなので、ハイブリッドではあり得るオンライン参加者が取り残される感がないこと、（たまたまかもしれませんが）受講者が多くても3名、マンツーマン受講の期間も長く進度、理解度に合わせて授業を展開してくださることが利点だと感じました。宿題をスキャンして提出、印刷物の用意、受講リンクの管理など保護者の手間は、対面よりかかると思います。

現地での受験勉強は、通常授業も模試も全てオンライン。次女は順調に取り組めていましたが、その理由として、日本出発前に日本の塾で一般受験用のかなり負荷のかかる塾やその宿題などを体験したことは大きいと思いました。塾、宿題（解き直しを含む）、提出、というサイクルを体験済みであり、オンラインでも成果を出せました。また、日本の友達が塾に通い始めてみんな頑張っているという意識もありました。

オンラインで受講する場合、一時帰国時に対面で通学する塾と同じであることは重要です。テキストなどが違っては効率が悪いと思います。

- 帰国後の学習で苦労したこと、うまくいったこと

中学入学まで現地滞在のため、「帰国後の学習」はなし。

1校目受験日の1週間前に一時帰国し、次女は1ヶ月半日本に滞在。帰国前後から風邪気味でしたが一校目受験前日には熱が38度まで上がりました。試験日当日朝は平熱に戻りましたが、薬も飲ませており最善の状態ではない中チャレンジし、結果不合格。簡単ではない学校ですが、一校目でしたし順調に仕上がってきたと思っていたので、親子とも大変落ち込みました。翌日の二校目は無事合格をいただきました。受験直前は体調管理が最優先。とにかく、体調管理が最も重要です。

現地のインター校をあまり長く休ませたくなかったのと私の仕事の都合上かなりギリギリで帰国しましたが、もう少し早く帰国できると余裕があって良いと思いました。

#### ・学校選びのポイント

夏の一時帰国時にいくつか学校説明会に参加。長女の時に考慮した学校が自然と志望校となりました。

#### ・これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス

直前まで海外滞在しつつの受験勉強は、周りの子が全くそんな状況ではない中の取り組みなので、子どもの気持ちを納得させるモチベ作りが大変です。楽しい行事もありつつメリハリをつけて取り組めるといいと思います。

また、説明会の予約、出願期間、書類の事前準備、当日の持ち物や集合時間等、エクセル一覧にして進行管理していました。この辺りは、色々な受験本にも書いてあるので、どれか一冊、XXママの本（刺激が強いですが）、仕事をしながらの受験フォローノウハウの本（これが実践的だった）など読んでおくと、保護者の受験対応の全体知識が身につきます。

加えて、一時帰国をどういう時期に設定するかも早めに検討を始めることをお勧めします。

#### ・志望校合格の瞬間のお気持ち

最後に受験した第一志望校は、次女が自分一人で発表を見ると言って部屋を閉めてパソコンで確認、一分間こもった後に合格だと言って出てきた時は、本当にホッと、次女の頑張りを心から祝福しました。

次女はインター校を離れる残念さもあるようですが、同じ学校に通うことになる長女から学校の話の聞いたりして進学を楽しみにしています。

ena 東京校、ena iBT 校（トロント、ダラス）の先生方、また直前講習でご指導いただいた先生方、事務ご担当の皆様、大変お世話になりました。心からお礼申し上げます。

# 市川、広尾合格

息子は幼少期から国内のインターナショナルスクールに通っておりましたが、小学校3年生から中学受験を見据えて通塾し始めました。当初は4教科の大手塾に通っておりましたが、帰国生受験に集中するのに、息子にとって4教科+英語は負荷が高すぎると考え、5年生より ena 国際部にお世話になることにしました。

ena を選んだ理由は、知人より「6年生後半から始まる志望校別講座が良かった」と聞いたことが大きかったのですが、実際入ってみると、少人数で、先生方も一人一人しっかりと把握してくださっているようで、大手塾にはない安心感がありました。しかしながら、5年生以降、内容も一段と難しくなり、得意だったはずの算数で躓き始めました。国語については、本を読むのが好きだった為、あまり心配はしていなかったのですが、うる覚えの漢字が多く、模試では漢字や論説文でいつも落としていて、安定しませんでした。インターナショナルスクールからの課題も多く、毎日学校と塾の宿題をこなすだけで精一杯の日々が続きました。今思うと言いつてはありますが、もう少し5年生の時にしっかり見てあげて、不得意な分野の復習に力を入れるべきだったと後悔しています。

6年生になると、英語塾の課題で圧迫されるようになり、ますます時間がなくなりました。いつまでもなくなる凡ミス（もはや凡ミスではない）が、2個も3個もあり、模試の偏差値も一向に安定せず、志望校さえも定まらず不安しかなかったことをよく覚えています。面倒臭がりな中途式を書かない、字が汚くて数字を写し間違える、など気をつけなければならない息子とは何度もバトルになりました。

息子本人に火がつき始めたのは、夏休みに入ってからだったように思います。まとまった休みのお陰で少しは苦手分野に取り組む時間も取ることができ、自分で計画表を作って、一つずつタスクをこなすようになりました（一つずつの量は少なかったですが）。夏休み頃から ena でも過去問を取り扱っていただき、実際の入試問題がいかに難しいかを実感したこともあったようです。

そんな夏休みも日々の講習であつという間に過ぎ去り、奇跡的に空いた夏休み最終週の1日を使って初めて TOEFL ibt を受験しました。全く準備する暇もなく、ぶっつけ本番で受けた結果、目標としていた90点には全く届かず、撃沈でした。（結局この後2度受験し、95点を超えることが出来ました。）夏休みの頑張りの割には模試の結果も芳しくなく、加えて帰国生資格が厳しくなった為に年内に受験できる学校が激減してしまい、不安要素しかありませんでした。しかし、ena の先生方は「逆に2月まで時間があるんだから」とポジティブな声かけをして下さっていたと息子から聞き、有り難かったです。

9月以降の志望校別講座はどれも必要な気がして、あれもこれもと取ってしまい、負担になりすぎないかと心配しましたが、息子は一度も嫌がることなく楽しく通塾し、その日に間違えたところ、出来たところなどを教えてくれていたので、やはりどれも行かせて良かったと思っています。

す。enaの英語の講座も英語塾とは別で受講しましたが、英語塾とは別のメリットもあり、時間内にエッセイを書き終わらせる練習を重ねることができました。

そうして迎えた初戦本番は、子どもの「できたと思う！」とは裏腹に残念な結果でした。本当に火がついたのはそれからだったかもしれません。落ち込んだ気持ちの中で、普段はおしゃべりな息子が静かに机に向かう姿を見るのは親にとっても胸が痛く、受験の厳しさを実感しました。

「もし全部ダメだったら、、、」というネガティブな気分で迎えた2戦目、息子の「難しかった。。。」とはまたまた裏腹に合格を頂くことができました！後で聞くと、算数は難しかったものの、国語は良い感触だったようです。年内に志望校の一つから合格を頂けたことで、大きな安堵感を持って年を越せたことは大きかったです。そこから2月まではとても長く感じました。受験を終えたお友達がどんどん塾を辞めていく中で、息子は1月末まで淡々と志望校別クラスに行き続け、家では殆どの時間を算数の解き直しに費やしました。その甲斐あってか、2月の第一志望校より合格を頂くことができ、最後まで走り切った充実感の中、中学受験を終えることができました。

親としては、家庭での勉強のサポートについても、声掛けについても反省するところばかりではありましたが、enaの先生方のサポートのお陰で乗り越えることができ、感謝の気持ちで一杯です。不合格の時も合格の時も、温かいメッセージを頂き、涙したことは忘れません。中学受験は単なる始まりでしかありませんが、中学受験で培った粘り強さや、ポジティブなマインドセット、解き直しの大切さ、など学んだことは数多く、今後の中学校生活でも活かして行って欲しいと思っています。先生方、スタッフの皆様、有難うございました。

# 江戸川女子、市川合格

アメリカ(ハワイ)で生まれ、姉の中学受験に合わせて小1の夏に日本にもどりました。日本ではインターナショナルスクールに通いました。ena 国際東京校には小3の二月から受験が終わるまで3年間お世話になりました。

- 中学受験を決めたきっかけ

第一言語が英語であったため、帰国受験を決めました。

- 現地での学習で苦労したこと、うまくいったこと

生まれてから英語圏に住んでいたため、英語に関して苦労は特にありませんでしたが、逆に日本語のためにアメリカの長い夏休みを利用し、日本に帰国し、幼稚園と小学校に入れてもらっていました。

- 帰国後の学習で苦労したこと、うまくいったこと

小1で戻ってきているため、英語の維持とボキャブラリーをどう増やすかで苦労しました。

日本語の本はほとんど読まなかったため、enaの国語部の教科書を永田先生がおっしゃる通り、音読を何回もしました。そして漢字の学習もその学年のものは極力その学年でしっかり覚えておくよう努力しました。学年最後には仕上げに漢検を受けるようにしました。ことわざなどもena国際のテストに出ることもあり、その都度しっかりと覚えました。これに関しては志望校が10問ことわざ慣用句が出る傾向があったので、やっておいて良かったと本当に思いました。

四年生の最初のenaの英語のテストで、(英検準一級をその時点で持っていましたが、)文法が驚くほどできていなかったため、山中先生の文法のクラスに直ぐ入りました。三年かけて文法を教えていただいたお陰で六年生の受験期には文法にとっても強くなりました。

英検に関しては、帰国受験で使う英語は準一級のボキャブラリーが実用的でした。一級も合格しましたが、一級のボキャブラリーは中学の帰国受験には直結しませんでした。

TOEFLを必要とする学校は受験しませんでした。TOEFLも90以上とりました。こちらは受験にとっても役に立ちました。TOEFLを必要としない場合でも勉強するのはとてもおすすめです。SATのリーディング問題も受験する学校によっては役に立ちます。

- 学校選びのポイント

まずは本人がどこの大学に行きたいか話し合い、本人が日本の大学を希望したため、日本語の授業、プラス英語の取り出し授業のある学校を選びました。

- これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス

アドバイスなんて大変おこがましいことですが、受験が近づいてきて本当に感じたことは、たくさん学校の受験対策はほぼ無理だということでした。三教科とはいえ、限られた時間内に優先順位を決めて時間配分をするのは、子供だけではやはり厳しいと思います。絶対に行きたいと思う学校を親子で話し合い、その学校の受験問題の傾向を過去問から探し出し、似た傾向の問題を解き 過去問は可能な限り数多く解いておくことをおすすめします。気持ち的に安心します。(たとえ当日傾向が変わったとしても、です。)特に算数は、時間配分の練習も大切でした。

後大事だなと思うことは、1番最初に受験する学校は受かる可能の高い学校を受けることです。1番最初に失敗すると次に繋げるのが親子ともに、精神的に辛くなると思います。

第一志望の学校に絶対に行きたいのであれば、最後まで諦めないという気持ちも大切かな~と思います。

- 志望校合格の瞬間のお気持ち

本人に、本当によく頑張った!と言いたかったです。

# 広尾、広尾小石川、三田国際、山脇合格

## ・中学受験を決めたきっかけ

両親共に中学受験経験者だったことと、いつかは日本に帰ることがわかっていたこと。また、帰国後に住むエリアが帰国子女が少ないことが予想されていたことから、中学は帰国子女が多く、似たような経験をしてきたお友達が得やすく、英語の取り出し授業がある私立の学校に入りたいと思っていたからです。

## ・現地での学習で苦労したこと、うまくいったこと

イスタンブールでは英系インターナショナルスクールに3歳から6歳まで、その後ロンドンでは現地校に6歳から10歳まで通っていたので（日本人は全校で一人）、英語での学習には困りませんでした。イスタンブールでインターに通い始めた当初は英語もわからずよく泣いていましたが、先生から、「英語が母語でない家庭での英語教育は不要、むしろ母語の完成が大事だから、母語を使うように」と言われていたので、そのようにしているうちに、家は日本語、外は英語での生活が当たり前になっていきました。

ロンドンは補習校が国語のみだったため、国語と算数の塾に通わせましたが、受験がイメージできない上、普段の生活にも使わない漢字など、モチベーションが上がらず、行っているだけの状態が続いてよく喧嘩しました。

## ・帰国後の学習で苦労したこと、うまくいったこと

帰国後すぐに ena で国語と算数を勉強しましたが、受験するために塾に来ている仲間がいることがわかり、また、公立小学校に通ってみて自分の国語力の無さを痛感したようで、徐々に自分ごととして取り組むようになりました。でも本気になったのは5年生の終わり頃でしょうか。

## ・学校選びのポイント

割合的に帰国子女が多いこと（学校としての国際性のために帰国生を取っているのではないところ）と英語のレベル。

将来の進路選びの選択肢が広がること。

管理型すぎずに、楽しい学校生活が送れそうなこと。

などを中心に、とにかく自然体で過ごせて、一生のお友達ができるような環境に入れてあげたいと思いました。

## ・これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス

とにかく本人が気づいて本気で取り組むようになってくれないと始まらないので、よく話して、気持ちを聞いて（文句がほとんどでも）、宥めたりすかしたりしながら、なんとか続けさせられるように、信念を持って支え続けることが大事だと思います。先生に授業中の様子や理解度を聞いたり、自分が言って聞かないことは先生から少しお話ししていただいたりも、私はお願いしてしまっていました。先生方には本当に感謝しております。

自分でやった方が楽し、何もかも思うように行きませんが、子供が積み上げていることがいつか線になって繋がると信じて頑張ってください。

- 志望校合格の瞬間のお気持ち

とにかくホッとしました。そしてやっぱり嬉しかった。親主導で引っ張ってきた自覚があったので、頑張ったことが結果につながって本当に安心しました。試験が進んでいくうちに、本人に自信がついてきたことも嬉しかったです。

# 東邦合格

## ・ 中学受験を決めたきっかけ

もともと公立中学進学も視野に入れていましたが、これまでに身についた英語力が活かせるような環境も捨てがたく、英語の抽出し授業がある私立中学受験を考え始めました。

## ・ 受験で苦労したこと、良かったこと

今年度から東京都での帰国生入試の出願資格が「海外滞在 1 年以上、帰国後 3 年以内」と厳格化され、大きく状況が変わったため、情報収集に本当に苦労しました。

また、帰国生入試は、入試科目が多岐にわたっているため、塾での 6 年生の履修科目も、とても迷いました。志望校を全て永田先生にメールし、それぞれの学校の入試に必要な履修科目を教えてくださいました。教えていただいた全ての科目を履修したかったのですが、家計も考慮して科目を選び出しました。欲を言えば全ての科目を履修させてあげたかったです。ena での授業は、やはり帰国生入試に特化していると感じられ、どの科目も受講すればただけ、力がつくと感じました。

それから、特に帰国生入試は高い英語力が必要なんだということを強く実感しました。我が家では家計の面から英語の履修数を抑えてしまっていたので、本来ならば、もっと英語に力を入れてあげたかったです。

ena で一番印象に残ったことを本人に尋ねたところ、「算数を得意にさせてもらったこと」でした。解き方が一番分かりやすいのは永田先生の授業。そして、赤松先生の授業は面白くて一番好きだったと言っていました。赤松先生の授業は、子どもたちの集中力がきれてきた頃にしてくれる雑談がとても面白くて、それも楽しみで勉強できた、と言っていました。

月に 1 度行われていた佐々木先生の算数のハイレベルテストへの挑戦も学びの良い機会になったと感じます。はじめは 10 点、20 点とるのがやっとでしたが、回数を重ねるたびに少しずつできる問題が増えていき、50 点を超えた回では佐々木先生や永田先生からお褒めの言葉をいただき、本人の達成感にもつながったようです。

## ・ 学校選びのポイント

複数の学校説明会や学校ホームページ、パンフレットの情報などから、まず、「生徒数において帰国生・国際生の比率が高く、英語を使った授業が多い中学」や「帰国生は全生徒の 1 割程度だが英語以外の学力も高めな中学(英語の抽出し授業あり)」といった学校に、親としては魅力を感じていました。

調べ始めるとっかかりとしては、ena 国際部の合格実績一覧などを拝見し、羅列されている中学名を参考にして、インターネットで調べ始めました。通学時間が 1 時間以内という点も条件に考え、直接、学校見学をして本人の意思なども確認しました。

実際に受験する学校を決める際には、ena の帰国生模試の偏差値や合格判定を参考にしました。中学によっては、過去の試験の合格最低点が非公開だったり、面接や英作文の点数を含めた合格最低点が公表されていたり、本人に自宅で解かせた赤本の過去問の点数だけを比べても、果たして今の実力で合格できるのかがさっぱり分からなかったため、そういった点でも ena の模試や面談には助けられました。

また、6年夏以降の ena の授業では、過去問の演習もたくさん入り、必ず授業報告メールをくださるので、どのような授業内容か、どのくらいの点数をとればいいのかのフィードバックがあり、子どもの今の実力や志望校に届くかの目安になりました。

また、帰国生入試は、併願校に合格した場合の抑えの一時金が高額で、本当に驚きました。例外的な中学もありますが、ほとんどが入学金全額か、もしくは半額を納めておく必要がありますもし A 校 > B 校 > C 校の順で志望していて、C → B → A の順で試験日があるとしたら、全部合格した場合、C 校の一時金約 15~30 万円を支払いして抑えておき、次に B 校の合格後に一時金約 15~30 万円、A 校が合格したら、A 校の入学金約 30 万円を支払う必要があったため、受験日や納入期限の日程なども考慮し、受験校を絞りました。

#### ・受験を終え中学進学に向けて

国算理社の 4 科目をしっかりと学んできた一般受験の生徒達と混ざって、中学生活がスタートするため、どの程度ついていけるのか、焦らずに楽しく学んでいけるのか等、親としては大いに不安があります。しかし、まずは目の前の嬉しそうな子どもの顔だけを見て、前向きに、中学入学後も親として支えて応援していきたいと思います。

今回の受験では、親として不安定な精神状態になりつつも、それが受験者本人には影響しないように努めてきました。親である私の精神面も多少磨かれました。親子ともに得られたこの経験や成長を、次のステージでも活かしていきます。

# 芝国際、広尾小石川合格

息子は ena 国際部東京校に 4 年生 2 月から国算英の 3 教科お世話になりました。5 歳から海外のインターに入り、滞在国にある日系の塾に通い、学年相応の知識習得を目指し国語と算数を受講していました。帰国時期が決まっていなかったため、中学受験をするか、編入試験を受けるか、その時のタイミングで決めようと思っていましたが、日本にいる息子の同級生はほとんどの子が中学受験をするとのことだったので、うちも挑戦することになるかなと漠然と思っていました。

5 年生になる前に、中学受験をするなら本腰を入れないといい、当時通っていた塾に帰国子女受験について質問をしましたがノウハウがあまりないことが分かりました。そんな時に海外駐在をしていた方々から ena 国際部の評判を聞き入塾することにしました。海外にいながら日本の塾の授業をオンラインで受講できるのはとても有難いことでした。また、帰国生がたくさんいる環境も良かったのですが、息子にとっては宿題の多さと知識を定着させるためのルーティーン(算数だったら問題を解く→丸付け→やり直し→メールで提出)をするだけでアップアップ、しかもインターの課題も多く早くも挫折しそうでした。なんとか半年続けてみようと思しながら、夏期講習で初めて対面授業に参加させていただきました。元々シャイな性格の為、対面授業はどうかなど心配していましたが、先生方が温かく迎え入れてくださり、いつの間にかお友達ができ、塾が楽しいと言うようになり一安心しました。その後も学校がお休みで一時帰国をする度に対面授業に参加させていただきました。

夏期講習より早く始まるプレ夏期講習にも参加しました。比較的少人数だったこともあり、先生が引率してくださってランチに行ったことがありました。親の監視がなく自分で現金を持ちランチに行くことは初めての経験でしたのでちょっと自信がついたようでした。夏期講習中は ena の近くのホテルに滞在していましたが、それから一人で塾に行き帰ってくるようになりました。日本で生活をしていたら普通のことかもしれませんが、滞在国ではスクールバスや車での送迎が必須だったので新鮮でしたし、急に親離れしたように思います。

インターの授業の関係で、東京校の一部の授業が受けられない時期がありましたがその時には西船橋校へ、学校別の対策授業がある時は吉祥寺校でお世話になりました。夏休み期間中はその 3 校で対面授業に参加させていただき、ある日は東京校の授業のあと吉祥寺校へ、ある日は東京校から西船橋校へ行ったこともありました。校舎や講座が複数あったので、どれも諦めることなく続けることができて良かったです。

ena に入って帰国性模試を受けるようになり、帰国子女受験の大変さを痛感しました。3 歳から日本のインター、5 歳から海外のインターに通っていたため、英語は問題ないだろうと思っていましたが、受験英語は全く違うものだと思い知りました。また、インターで習う Math は算数よりも数学に近いものだったので、なぜ〇〇算を使わないといけないのかと疑問に思ってしま

い、なかなか受験算数の理解ができず苦労しました。国語については第二外国語で中国語を取っていたため、漢字や音読することなど国語に近いので、英語と算数に比べれば大変ではなかったように思います。

中学校のオンライン説明会には参加していましたが、見学は思うようにできませんでした。息子のようなインター育ちのお子さんが楽しく通われている学校を永田先生にお聞きし、学校を絞っていくことにしました。通っていたインターが出席日数に厳しかったこともあり、秋休みや冬休みに受験できる学校のみ受験することにしました。中学受験で思うような結果が出なければ、そのままインターに通うことも選択肢の一つと考えていたので、欠席しないようにスケジュールを組むしかありませんでした。息子は将来海外大学に進学したいという夢を持ち始めていたのでそのノウハウを持っている学校、インターのように英語で授業を受けることができる学校を第一志望にすることにしました。

帰国生模試を受けるたびに点数の低さに愕然とし不安や焦りが大きくなる私と、それでも受験に前向きな息子。このままではどこも合格することができないと思い、もっと危機感を持って勉強してほしいと何度も話し合いをしました。最大限できるサポートをしていても肩透かしにあっていくようで私は辛かったです。個別指導の際は勉強や受験に対する心構えについてお話してくださいとお願いしたこともありました。息子が本気で向き合うようになったと私が感じたのは第一志望を受験する1か月前でした。結果なんとか間に合ったので良かったですが、たとえ1校も合格することが出来なくても責めないように冷静にいるように心がけました。

第一志望の合格発表はサイトで確認することにしました。ログインしてみると『えっ、ほんと！？合格？』嬉しいよりもびっくりしました。息子は個別指導を受けるためにenaにいました。授業が始まる直前でしたが連絡してみると『えっ、まじ??』笑。帰国生模試や受験直前の志望校判定でも散々な結果だったので、まさにチャレンジでした。あとで息子に聞いてみると、英語の試験は過去一上手に書けたことと、面接がとにかく楽しかったとのことでした。サイトで合格発表を見た翌日、学校に書類を受け取りに行き、そこでやっと夢じゃないんだと合格を実感しました。

中学受験を走りきることができたのは、どこまでも前向きだった息子の頑張りもありますが、ena国際部の先生方のおかげだと思います。海外からの参戦で孤独になるかと思いましたが、enaの仲間がいると思うと心強かったようです。的確なアドバイスをくださる永田先生はじめ、楽しい授業だけではなく時には厳しい授業をしてくださり、それだけではなく保護者の精神的支えにもなってくださった先生方、感謝せずにはられません。お世話になりありがとうございました。

# 青稜、都立白鷗合格

私たちは、英語圏で5年間過ごし、6年生になる春に帰国しました。国・算・英で受験できるように準備をし、直前期（12月）から作文と面接の対策を行い志望校に合格できました。

## ■中学受験を始めたきっかけ

現地の生活の中で英語が徐々にできるようになってきたため、帰国後も取り出し授業など英語の授業のレベルが高い学校に行かせたいと思うようになり、帰国後受験を検討し始めた。

## ■現地の学習で苦労したこと、うまくいったこと

帰国時期が小学4年を超えることが分かった段階（小学校3年の中頃）で、塾で国語の授業を受けはじめ、4年生からは国・算の授業を受けるようにした。その後、5年生までは継続して授業を受け続け、一通りの範囲学習を終えた。

・苦労したこと：授業だけでは十分理解できていないことがあり、週末に理解できていない部分も含めて親が教える必要があった。

・うまくいったこと：早い段階から受験勉強を開始したため、比較的ゆっくりしたペースで範囲学習を終えることができた。

## ■帰国後の学習で苦労したこと、うまくいったこと

スポーツクラブを優先していたため、帰国後の生活の立ち上げと塾の検討に時間がかかり、3か月程度は受験勉強ができない期間があった。7月ごろから国・算を個別指導で受講し、12月に入ってから作文・面接の個別指導を受講した。

・苦労したこと：帰国後学校になれることや、スポーツを優先していたため、スケジュールが合わない大手学習塾に入ることを諦め、志望校の合格に絞った対策を模索したこと。

・うまくいったこと：スポーツクラブのスケジュールを優先したため、個別指導で志望校の対策のみ集中的に実施し、合格できたこと。特に作文、面接は12月から個別指導と冬期講習で集中的に対策した。

## ■学校選びのポイント

帰国生向けの授業内容、立地で学校を絞り、子供と実際に学校を訪問した。実際に学校を訪問すると、通学経路や学校周辺の雰囲気も含めてよくわかった。

## ■これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス

私たちは6年生の夏ごろまで第一志望以外に明確な志望校が決まっていなかったが、4年生から国・算の受験に向けた学習を継続していたため、ある程度幅広い学校を選択肢に入れながら志望校を決定することができたように思います。

英語圏の方であれば、国・算・英で受験できる準備を進めておくと、選択肢が広がるように思います。

また第一志望の前に合格している学校があると精神的には非常に楽ですので、塾などと相談しながら、抑えになるような学校を事前受験校として選定いただくとよいと思います。

# 市川、白百合、三田国際、山脇合格

## ・中学受験を決めたきっかけ

娘は小2・8月から小5・8月までの3年間の海外生活を経て帰国しました。現地では、英・仏のインターナショナルスクールに通っていたこともあり、英語・フランス語をそれなりのレベルで習得することができていました。その中で、本人から「またイチからA,B,Cを勉強したくない」という申告があったことが、中学受験へと舵を切る大きなきっかけとなりました。帰国時期も帰国生入試にむけて良いタイミングであったこともあり、4年生の12月に帰国子女入試の準備を開始しました。

## ・現地での学習で苦労したこと、うまくいったこと

海外生活開始から2年ほどは英語・仏語の習得を最優先とする必要があったため、日本の勉強をほとんど振り返ることなく過ごした一方で、本人が読書好きであったため、日本語の「読み」は維持できていました。その結果、漢字と算数が大きく遅れた状態で勉強を開始することとなりました。勉強開始にあたっては、赴任地には日本学習に対応した学習塾がなかったため、まずはオンラインで行うこととし、5年生9月の「帰国後に日本の塾に通っても大丈夫なレベル」を目標に勉強を進めました。このように早めに準備を始め、海外居住中の勉強達成目標を明確に設定したことは本人のモチベーションからも、オンライン授業を行っていただいた方とのコミュニケーションの面からもうまく機能したと思います。一方で、本人が周りに目に見えるライバルがないとやる気がでない（天狗になってしまう）性格であったため、オンラインでの授業は合わなかったように思います。また、こうした性格のためか、「問題を解いて、丸付けを行い、間違った問題を見直す」というサイクルが家庭内では全く完結できず（大抵「問題を解いて」で終了。）、とても苦労しました。そしてこの課題は、日本への帰国後も解決できず、enaの先生方には大変なご迷惑をおかけすることになってしまいました。

## ・帰国後の学習で苦労したこと、うまくいったこと

上記の準備のおかげで、入塾まではスムーズに移行でき、比較的順調に勉強はすすめられたのではないかとおもいます（丸付け・やり直しを除く）。とはいえ、親の実感としては、6年生の夏休みまでは、自律的な勉強の姿勢も見られず、ヤキモキ・時に衝突もしたのですが、6年生の夏休み・富士山合宿に参加したあたりから、完全に目の色が変わり主体的にかかわるようになった印象です。そんな中、一番苦労したのは、過去問の入手とその解答作りです。帰国生入試の過去問は、学校説明会等のイベントを通じて入手するしかなく、また、多くの場合、その解答がありませんので注意してください。

## ・学校選びのポイント

学校選びにあたっては、①入学後に英語取り出し授業を行っていること ②本人が理系志望であったため理系への進学に実績のあること ③できればフランス語も継続して勉強できること、

を要件として大まかに選定し、その後、その中から、個別説明会、学校紹介イベント、文化祭への参加などを行い対象を絞りました。親ができるのはそこまでで、最後は本人のフィーリングと相性で決めることになりました。

- これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス

学校選びについては、実際に学校に行くことが最も意義があるものと思います。私たちは5年生の9月に帰国し右も左も分からない状態であったため、5年秋の学校訪問イベントにあまり参加できませんでした。この結果、6年春のイベント参加が増え本人の負担が増えることにつながってしまったので、無理してでも5年秋の学校イベントへの参加をしておくことをお勧めします。

また、帰国生入試は、11月から2月までの長丁場です。時期によっては毎週のように入試がある中で、受験期間中のインフルエンザや合格による気の緩みなど、本人の体調やモチベーションの維持は相当に難しいと実感しました。こればかりはどうしようもないので、事前に覚悟し、事後に臨機応変に対応するしかないのですが・・・。

- 志望校合格の瞬間のお気持ち

合格した瞬間は受験勉強をめぐる、いろいろと衝突した記憶がよみがえり、もうあんなことを言わなくてもよいと、「ホッとした」というのが正直なところでした。

# 聖光学院、広尾、広尾小石川合格

## ・中学受験を決めたきっかけ

我が家は息子が小2の夏に非英語圏に渡航、インターナショナルスクールのGrade3からGrade5まで過ごし、小5の夏に本帰国しました。

もともと中学受験を考えてはいましたが、帰国のタイミングが小5の夏というのが微妙でした。一般受験を見据え、滞在中から日本の進学塾のオンライン講座を受けるといった選択肢もありましたが、我が家としてはできるだけ現地での学習や経験を優先させたかったこと、また私自身、コロナ禍の影響も色濃い海外生活の中で受験情報を調べたり手配したりするところまで至らず、結局帰国までやり過ごしてしまいました。

小5の7月に帰国した時には、既に夏期講習の申込みを締め切っているところが多く、何とか受け入れていただいた一般受験用の4教科のコースに行くことになりました。理科や社会を勉強するのもいいと思うよと言って送り出しましたが、クラス分けでも下の方のクラスになり、甘くはないな、しまった…と一瞬後悔しました。とは言え、楽しいことも大変なこともたくさんあった海外生活は私達家族にとって素晴らしい経験でしたし、「海外にいたから中学受験が思うように行かなかった」と言い訳のようにしてしまうことがあればそれは良くない、後々、海外生活ができて良かったと思えるような受験にしよう（自分がのんびりしていたことは棚に上げつつ）決めました。これは①英語で受験すること、つまり英語の勉強を継続すること、②入学後英語を伸ばせる学校を選ぶことである程度達成できると考え、改めて英語での帰国子女受験に照準を定めました。enaには夏休み明けの9月から通い始めました。

## ・現地での学習で苦労したこと、うまくいったこと

現地では特に中学受験の教材などはやらず、日本でも通っていた公文を続けていました。算数はF（小6の内容）まで、その後は宮本算数教室の教材を取り寄せて解いたりしていました。国語は中学生の課程に入ってから帰国までは続けました。様々な文章に触れられるという意味で良かったと思います。このように書くと、さぞコツコツ努力していたのだらうと思われるかもしれませんが、公文に関しては、日本にいた頃から毎日のプリントや直しを嫌がるので親子喧嘩も多々…現地でも何度もやめようと思いましたが、1日1枚でも、あるいは全くやらない日もありつつ、細々と続けていました。教室に行くと先生がいつも褒めてくださり、それで親子共々なんとか頑張れました。

英語についてはほぼゼロの状態です。インターに入学しました。初日に迎えに行った時の息子の涙ボロボロ大泣きの顔は忘れられません。1年目が終わった時点の担任の先生のコメントが、EAL（英語初心者用の取り出しコース）を卒業できるかどうか…というものでした。夏休みは、オンラインの英語レッスンを受けたり、EPICで英語絵本と一緒に音読したり、学校の先生にすすめられた文法の教材をしたりして2年目に備えました。新学期が始まり、EALにこそ入れられませんでした。心配は尽きませんでした。2年目後半のEnglishのクラスで単行本を一冊読むという課題をこなしたことで自信もついた様子でした。海外生活2年目が終わる頃に英検準一級に合格したのは嬉しい驚きでしたが、恐らく日々の学校生活を通じてリーディングやリスニングは親が思っている以上にできるようになっていたのだと思います。3年目になっても、英語をペラペラ喋り出すということはなかったものの、授業には問題なくついて行っているようでしたし、

長めの児童文学も読むようにもなり、この子はこういう風に英語を習得するタイプなのだと、海外生活も終わり頃になってようやく息子の個性に気付くことができました。

- ・帰国後の学習で苦労したこと、うまくいったこと

学習面では基本的に塾にお任せしていましたが、家での勉強態度には小言ばかり言っていました。恥ずかしながら、ゲームやYouTubeは最後までやめさせることはできませんでした。ゲームを隠したり、いろいろバトルもありましたが解決に至らず…。発想を転換して、普段あまり感情を出さない息子がゲームの時には喜んだり悔しがったりしているのは感情のはけ口になっているんだな、YouTubeは英語のリスニングの練習だなと解釈することにし、ある程度注意はしてもらうさく言うのはやめました（もちろん理想的には控えるべきと思います）。祖母から息子に電話をかけてもらい、やんわりと言ってもらったこともありました。

また、息子は算数の間違えた問題のやり直しが好きではありません（皆そうかもしれませんが…）。宿題ベースであればやるのですが、塾や模試で間違えた問題をその後更に2回、3回でもやり直して、完璧にするというのは夢のまた夢でした。新しい問題を解くのは割と好きなようだったので、本人の好みに合いそうな問題集（書くスペースが広く、解説がすぐに確認できるような構成のもの）の似たような問題を解かせていました。あくまで親の余裕があればの話で、嫌な課題の前でぐずぐずしているよりはとの苦肉の策でした。一方で、やけに静かだな・・・とふと見ると、割と集中して算数のテキストをやっているということもありました。褒めたらモチベーションも上がるに違いないと思い、大袈裟に褒めたところたいして喜ばず、それどころか声をかけた時点で集中力が切れて終了～という展開を何度か経たうえて、そういうときは寝転びながらの勉強であろうとできるだけ放っておくようにしました。漢字や慣用句、諺などは、さあ勉強しなさいという抵抗するので、夜寝る前などに5分間くらいクイズ形式でやるようにしました（いかにも帰国子女らしい間違いをすることもあり、そんな時には親子で大笑いしました）。そのように、子どもがもし勉強モードになればそれを如何に長引かせるか、こちらから勉強しようと声がけする時には既にそのページまで開いた状態でほぼ騙し打ちですが、床にテキストを置いて問題を解いていようが、細切れであろうが、とにかく学習的なものに触れている時間を稼ごうというつもりでやっていました。

ちなみに、午前中に土曜授業や模試があると、やはり疲れるのか通塾を渋ることもありました。そのような時はenaはオンラインに変更できたので、大変ありがたかったです。先生方にも息子のそのような性格をご理解いただき、温かく受け入れていただいたおかげで、私自身も本当に救われました。共働きでいつもバタバタと大雑把なサポートしかできませんでしたが、永田先生をはじめenaの先生にはいつも臨機応変に対応して頂き、大変感謝しております。

- ・学校選びのポイント、志望校別の対策等

試験科目に英語が入っていること、英語の取り出し授業があること、もし仮に子どもが海外の大学を目指したいという場合に対応が期待できる学校ということで、広尾学園を第一志望とし、英語力の面で厳しいと思いましたが、渋幕や渋沢もチャレンジ校として受験するという方向で授業を組みました（渋沢は最終的に受験しませんでした）。

個人的には国際バカロレアのプログラムにも惹かれましたが、課題の多さや評価方法が本人には合わないと思ったため、IB校は除外しました。

聖光学院は少し方向が違いましたが、たまたま当時予約不要だった説明会に親のみ参加したところ、良い印象を受けました。調べてみたところ、英語の取り出し授業もあり、試験科目的（英

語、算数、面接なし)にもアリではないかと思い始めました。ただ、受験の方向性がぶれないほうが良いと思い、あくまで可能性の一つとしておりました。息子自身は小6の秋にはじめて説明会に行き、聖光の受験を意識したという感じだったと思います。

いずれにせよ、日程的にもまずは広尾の対策です。enaの面談で教えて頂き、広尾学園等はTOEFLによる英語試験免除を目指すことにしましたが、小6の7月に初めてTOEFLを受験したところ、90点にはとても届きませんでした。秋の広尾模試も英語の点も含めあまりよろしくなく、これはなんとしてもTOEFLの点数を上げなくてはと焦りました。なんとか11月の広尾小石川の出願にギリギリ間に合うタイミングで90点以上を取得できましたが、TOEFL対策そのものが英語力の底上げにもつながりますし、もう少し早く準備をすべきだったと思っています。TOEFLの活用をお考えの場合には、小6の1学期のうちに一度受験されることをお勧めいたします。

算数に関しては、広尾対策(英語での出題)として東京校の広尾Mathを受けていましたが、聖光学院も受けるのであればあざみ野校の対策コースはどうかとアドバイスを頂き、11月末からオンラインであざみ野校のクラスに入れていただきました。直前の冬期講習は対面のみとのこと、遠方のため迷いましたが、頑張っって参加することにしました。あざみ野校の飯田先生やクラスのお友達から良い刺激を受け、聖光学院を受験するんだという気持ちをつくっていったことで、結果的にご縁を頂けたと考えております。

聖光学院の後に受けた渋幕の壁はやはり高く、残念ながらご縁は頂けませんでした。ただ、渋幕に向けた英語の勉強が聖光の入試でも活かせたと思いますし、もちろん無駄ではなかったと思います。Shibuya EnglishではWritingのきめ細かいアドバイスを頂いたり、マイケル先生やアラン先生にも面談の個人レッスンをしていただいたりしました。結果的に不合格でしたが、本人は当日の試験後は力を出し切ったという顔をしておりました。

#### ・受験を終えて

中学受験は「受験生たるものこうあるべき」という思い込みとの戦いでもあり、我が子を知るための道のりでもありました。

私自身の反省でもありますが、子どもはどんどん変化・成長していきますので、決めつけないということが大事だと感じます。渡航する前を振り返ってもそうなのですが、親が勝手に思う「〇ヶ月後は、〇年後はきっこうなっているだろう」という予想は、良い意味でも悪い意味でもどんどん裏切られますので、親としての理想的なプロセスに当てはめようとする辛くなります。こういう時はやる気をなくすんだとか、これは意外とできるからもう少し難しいのをやらせてみようとか、子どもの反応や変化を見て、柔軟に打つ手を変えていくようにしてからは、少しずつ手応えを感じ気持ちも楽になりました。最後のほうは未知の生物の生態を観察しているような気持ちでした。

#### ・これから受験する生徒さんの保護者様へ

あくまで我が家のケースに特化した、個人的な経験をここまでお読み下さってどうもありがとうございます。

大変なこともありましたが、合格した時の息子の笑顔は、本当に何のものにも変え難い嬉しい記憶として心に残っています。異国の地での試練を乗り越えてきた受験生の皆さん、支えて見守ってこられた保護者の皆様にとって、中学受験もまたご家族の素晴らしい軌跡となることを心より願っております。